

科目名 観光経済学
Title Tourism Economics
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
非常勤講師 塩谷 英生 (シオヤ ヒデオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この講義では、統計データを用いて観光経済のあらましと経済効果向上施策の概要について学習します。講義前半では、旅行市場と観光産業の分類・定義を学んだ上で、主な観光統計・社会経済統計を用いて、日本人の国内旅行、海外旅行、訪日外国人旅行、国際観光市場の別に、市場の概況について把握します。後半では、観光の経済波及効果の概念を理解するとともに、観光地経営の視点から地域における経済効果を高めるための諸施策について学びます。

達成目標

- ・旅行市場および観光産業の定義とその現状について把握する。
- ・統計データを通じて地域の観光経済の実態と課題を考察できる。
- ・観光施策を立案することへの関心を高める。
- ・観光統計や経済効果調査のデータを図表で表現する方法を学ぶ。

スケジュール

- 第1回 講義のガイダンス
- 第2回 旅行・観光市場の分類と定義
- 第3回 国内旅行市場・海外旅行市場のあらまし
- 第4回 訪日外国人市場のあらまし
- 第5回 国際観光市場のあらまし
- 第6回 我が国の観光産業と経済波及効果
- 第7回 観光経済統計の国際基準TSA (Tourism Satellite Account)
- 第8回 国の観光統計からみた地域観光
- 第9回 地域の観光統計からみた地域観光
- 第10回 地域における観光の経済波及効果とは何か
- 第11回 経済効果の向上施策① - 観光客を増やす
- 第12回 経済効果の向上施策② - 消費単価を増やす
- 第13回 経済効果の向上施策③ - 域内調達率の向上
- 第14回 観光地経営と持続可能性
- 第15回 まとめと補足

教科書・参考文献

教科書 特に定めません。

参考書 『観光白書』観光庁 (WEBから最新版を参照)
"Tourism Highlights" UNWTO (WEBから最新版を参照)

授業外での学習

参考文献や観光統計や経済統計データを閲覧して、基礎的な知識をある程度自習しておくことを推奨します。その上で、「自分が〇〇町の観光政策担当者だとすれば」の立場から、地域観光の現状を統計データ等を用いて把握する、課題に対する具体的な施策を立案する、という意識を持って講義に臨んでみてください。

評価方法

定期試験は行わない。
授業態度及び不定期に講義内で課すレポートの評価 (60点)、期末レポート (40点)。

履修上の注意

講義前に、事前に指示する資料を保存あるいは閲覧しておいてください。また、後半を中心に観光施策のあり方等について討議をする時間をもうけますので、事前に考えを整理しておいてください。レポートについて、既参考文献等からの引用が中心となっており、自分自身での考察が不十分な場合は減点します。

科目名 観光社会学
Title Sociology of Tourism
科目区分 観光政策基礎科目

准教授 石井 清輝 (イシイ キヨテル)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

目的

現代社会において、観光は巨大な社会現象になっている。観光現象が人々の生活や意識に大きな影響を与えると同時に、人々の生活や意識のあり方の変容が観光現象の変質を生み出している。本講義では、このような観光現象と社会との関係を中心に、社会学的な概念や理論、実証研究の蓄積を踏まえて、マクロ・ミクロな視点を交差させつつ考察していく。具体的には、擬似イベント、社会のディズニーランド化、観光のまなざし、観光と地域社会、オルタナティブ・ツーリズム、オーセンティシティ、グローバル化など、社会学的な概念、視点を通して、実際に生じている観光現象について解説する。本講義は、①基本的な社会学的なもの見方、考え方を身につけてもらい、観光現象を社会学的に説明できるようになってもらうこと、②現代社会における観光現象の特質や実態を理解してもらうこと、の2つを目的とする。

達成目標

観光現象は複雑で多様な要因が絡まりあって生成している。このような複雑な社会現象である観光について、社会学的な概念や理論によって説明し、さらに、観光社会学的な問いを設定できるようになることが受講生の目標となる。

スケジュール

回数	内容	講義概要、スケジュール、評価方法
第1回	ガイダンス	観光社会学的な問いとは？
第2回	観光社会学の対象と目的	ハワイ観光から考える
第3回	擬似イベント論①	擬似イベント論の限界
第4回	擬似イベント論②	消費社会とシミュラクル
第5回	ディズニーランドの社会学①	社会のディズニーランド化
第6回	ディズニーランドの社会学②	さまざまな「聖地」の観光化
第7回	観光のまなざし①	多様化・個別化するまなざし
第8回	観光のまなざし②	観光まちづくりの理念
第9回	観光と地域社会①	観光まちづくりの現実
第10回	観光と地域社会②	マスツーリズムとオルタナティブツーリズム
第11回	現代観光の動態①	ソーシャルメディアと観光の新たな潮流
第12回	現代観光の動態②	グローバル社会における文化観光
第13回	現代観光の動態③	グローバル化が提起する問題群
第14回	現代観光の動態④	
第15回	講義のまとめ	

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 ・安村克己ほか編『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房、遠藤英樹ほか編『現代観光学-ツーリズムから「いま」がみえる』新曜社 その他、講義内で適宜指示する。

授業外での学習

授業中に配布した資料を読み、学習内容の定着を図ること。新聞やニュースから観光に関する情報を積極的に収集すること。

評価方法

授業態度及び毎回の小レポート (30%) 定期試験 (70%)

履修上の注意

毎回、授業時間内に、授業内容に関連する小レポート (簡単な質問及び授業の理解状況の確認など) を書いてもらいます。

科目名 交通政策論
Title Transportation Policies
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
准教授 小熊 仁 (オグマ ヒトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

目的

交通は私たちの社会のなかで最も身近で、かつ生活に必要な不可欠な基盤を提供するものです。お盆や年末年始の道路混雑、高齢者ドライバーの事故、地方口一カ所鉄道の廃止など私たちは日々何かしらの交通問題に接しており、これらに対して多くの人々から問題提起や政策提案が実施されています。交通政策を分析することは、日常生活で起こっている問題の実態や事実の解明だけでなく、現実を改善するための「道しるべ」を発掘することであるとも言えます。本講義は現在起こっている交通問題のトピックを把握し、政策の経過やその成果、および残されている課題を理解することが目的です。最終的には、交通をめぐる各分野において今起こっている、あるいは発生している問題を自ら検証し、それについて受講生自身の考え方や意見を持てる素養を身に付けることが目標です。

達成目標

- ① 交通問題の所在や交通政策の手段に関わる基礎的事項を理解すること
- ② 各種交通サービスとインフラをめぐる政策の仕組みやそれらの基礎的事項について理解すること
- ③ 交通サービスやインフラを運営する事業者の行動や戦略について理解すること
- ④ 交通に関わる政策課題を理解し、政策の望ましいあり方について自ら検証を行えるようになること

スケジュール

- 第1回 ガイダンス～本講義の目標・講義内容について～
- 第2回 交通問題の所在と交通政策の手段
- 第3回 航空規制緩和と格安航空会社の台頭
- 第4回 混雑空港の問題と空港の拡張
- 第5回 乗合バスの規制緩和とツアーバス事業
- 第6回 タクシーの規制緩和と再規制
- 第7回 整備新幹線と並行在来線に対する対応
- 第8回 地方鉄道の維持と地域活性化
- 第9回 過疎地域の公共交通問題と技術革新
- 第10回 高齢者の免許返納と代替手段の提供
- 第11回 交通分野の環境問題と対策事例
- 第12回 道路混雑のメカニズムと渋滞解消策
- 第13回 交通事業者の人員不足と対応策 (物流業編)
- 第14回 交通事業者の人員不足と対応策 (旅客業編)
- 第15回 講義のまとめ

教科書・参考文献

教科書 とくにありません。PPTで資料を配布します。

参考書 田邊勝巳(2017)『交通経済のエッセンス』有斐閣ストウディア。

授業外での学習

教室での講義が中心となります。日頃から新聞やテレビなどを通じて私たちの身近な存在である交通に注目し、自分自身で問題意識を持つように心がけて下さい。

評価方法

毎回講義内で課す課題の取り組み状況(30点)、期末試験(70点)を総合して評価します。詳細は、授業開始時に説明します。

履修上の注意

とくにありません。交通について関心のある方、これから学習してみようと思っている方、どなたでも受講を歓迎します。

科目名 観光リゾート計画論
Title Resort Planning
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
非常勤講師 南 賢二 (ミナミ ケンジ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

目的

本講義では、民間の調査研究機関において35年間にわたって取り組んできた観光地およびリゾート地域にかかわる調査・研究・計画の実績を踏まえ、当該地域の振興に向けた計画論の講義を行う。観光は、誰でもが顧客として関与することができる身近な活動であるため、旅行者や住民の視点から断片的な問題の指摘や改善策の提案を行うことが可能であり、これに対応した短絡的かつ部分的な施策が講じられることが少なくない。しかし、このような場当たり的な施策のみでは、経年的で安定した誘客を図り地域の長期的な発展を望むことは難しいと言わざるを得ない。本講義では、このような観点から余暇市場の将来の変化を予測しつつ地域特性を踏まえ、20年、30年先の長期を見据えた魅力ある観光地やリゾート地域整備のための計画手法について、体系的な計画論の講義を行い、その理解を進めることを目的とする。

達成目標

地域振興において重要な役割を担う観光計画やリゾート計画について、農村や自然地域、都市などの多様な地域特性に応じたその展開手法と計画論を学ぶことにより、長期的な視点に立脚した計画理念や意義、策定手法を理解し、地域政策学部出身者として業務や住民参加活動において、観光を活かした地域振興を主体的に担える人材となることを講義の目標とする。

スケジュール

回数	内容	講義計画とその目標、使用資料、試験・レポートの方法、観光リゾート計画の位置づけ等
第1回	ガイダンス	講義計画とその目標、使用資料、試験・レポートの方法、観光リゾート計画の位置づけ等
第2回	観光計画の基本要件	観光の役割、国内観光と観光計画
第3回	観光レクリエーションの構造	観光の構造、観光資源の種類、タイプ
第4回	旅行行動の分類と行動パターン	レクリエーション・リゾートの資源、旅行行動の分類
第5回	観光リゾート計画の進め方(1)	計画の役割とその手法、計画の全体構成
第6回	観光リゾート計画の進め方(2)	地域条件の把握と分析
第7回	観光リゾート計画の進め方(3)	資源条件、観光動向、市場ニーズ等の把握と分析
第8回	観光リゾート計画の進め方(4)	課題の総括と計画条件の分析
第9回	観光リゾート計画の進め方(5)	計画コンセプトの設定手法と施策の体系
第10回	観光情報の分類と活用方法	観光情報のタイプと分類
第11回	リゾート地域の整備要件	海浜リゾート、山岳高原リゾートと滞在環境
第12回	温泉地の再生手法	温泉地整備と温泉リゾート整備
第13回	都市の魅力と観光計画	都市観光の整備推進手法
第14回	中山間地域における観光振興方策	グリーンツーリズムの整備推進手法
第15回	講義内容の総括	地域開発の課題と講義の総括

教科書・参考文献

教科書 無し (適宜資料配付)

参考書 無し

授業外での学習

さまざまな情報媒体における観光関連情報について、観光施策・計画論の視点から分析評価し、想定される課題とその対応方向を考えるよう日々努力すること。

評価方法

中間テストまたはレポート2回程度 (50%)、期末テストまたはレポート (50%)

履修上の注意

地方の振興や都市観光に関心がある者には聴講を勧めるが、その場合、観光政策論や景観計画論も学ぶことが望ましい。

科目名 サービスマネジメント
Title Service Management
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
教授 井門 隆夫 (イカド タカオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

日本をはじめ、世界各国では経済成長とともにサービス経済化が進展し、サービスマネジメントの必要性が高まっている。その一方で、無形性を特徴とするサービスは時として「無料」と解釈されることもあり、サービス産業の生産性向上が課題となっている。本講義では、長年サービス業で勤務し幅広くサービスについて観察してきた教員の経験を活かし、サービスの基本的概念を学んだ後、様々なサービス産業のケースを扱う。最終的に、受講生は自らサービスに関する観察調査を行い、一部の受講生による発表も行う。観察調査では、表層的サービスを観察するだけでなく、対象企業の経営戦略や顧客の「ジョブ」も包括的に研究・観察し、経営におけるサービスマネジメントの重要性を理解できるようにすることを目標とする。

達成目標

- ① サービスに関する知的好奇心を養う： サービスの意味を理解し、生産性向上に役立てることができる。
- ② 論理的思考力を養う： サービスが経営にどのように役立っているのか、論理的に展開できる思考力を養う。
- ③ 洞察力を養う： 見えるものを観察すると同時に見えない部分も推理できる力を養う。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス ~ 講義の進め方、サービス産業の課題やサービス特性
- 第2回 サービスを考える上でのセオリーやフレームワーク
- 第3回 サービスの2つの型 (カスタマイズサービスとユニバーサルサービス)
- 第4回 サービス評価と調査・分析方法 (提出レポートに関する説明)
- 第5回 サービス現場の第一線から (ゲスト講師を予定)
- 第6回 ケーススタディ① (宿泊業編)
- 第7回 ケーススタディ② (飲食業編)
- 第8回 ケーススタディ③ (小売業編)
- 第9回 ケーススタディ④ (ITを活用した新しいサービス業編)
- 第10回 ケーススタディ⑤ (観光業編)
- 第11回 サービス改善の課題と対策
- 第12回 サービス現場の第一線から (ゲスト講師を予定)
- 第13回 調査結果の学生発表①
- 第14回 調査結果の学生発表②
- 第15回 ふりかえりとまとめ

教科書・参考文献

教科書 講義資料は毎回スクリーンに投影。講義終了後ポータルに保存する。

参考書 授業中に随時紹介する。

授業外での学習

本講義では、学外でサービスを体験・観察してレポートすることが求められます。対象企業の選定も必要になってくることから、日常から様々なサービスに興味を持ち、サービスがマネジメントの一環としてどう組み込まれているのかを洞察するくせを付けておくこと。

評価方法

毎回のワークシート (講義中に出される問いを考えながらアプリに入力または用紙に記入し講義終了後提出) 60%
インスペクションレポート (サービスを自ら観察し当該企業の経営戦略について考察する) 40%

履修上の注意

授業は欠席しないことが前提ですが、欠席 (公欠等を含む) の場合は、必ずその回の授業資料をポータルで確認し、次回の授業に臨むこと。また、学生は観察レポートに関して簡単にパワーポイントにまとめ発表することが求められます。発表者は発表してもよいにチェックを付けた学生 (例年全体の7割程度) のうちから10~20名程度をお願いします (発表してもよい方には全員に10点加点)。

科目名 NPO論
Title Non-Profit Organization
科目区分 観光政策基礎科目

教授 八木橋 慶一 (ヤギハシ ケイチ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 単位数 開講時期
2 選択 2 後期

目的

現代社会では、NPO（非営利組織）が独自の理念に基づいて社会の課題に取り組むだけでなく、行政と協働しながら様々なサービスを提供するようになってきています。本講義ではNPO、とくにNPO法人（特定非営利活動法人）についてその意義や役割、機能、マネジメントといった多様な視点から考察していきます。また、NPOが福祉やまちづくり、環境などについてどのような活動を展開しているのか、具体的な事例も交えながら紹介する予定です。非営利活動の基本となる知識を習得し、その可能性や限界、どのような課題を抱えているのかといった点を理解することを目的とします。

達成目標

①NPOがどのような組織であり、現代社会においてどのような役割を担っているかを理解する。 ②NPOの幅広い活動をみることで、現代社会の課題の多様さを理解し、視野を広げる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要・講義の進め方・成績評価
- 第2回 NPOの世界①：NPOとは何か、事例（福祉など）
- 第3回 NPOの世界②：事例（地域づくり、国際的な活動など）
- 第4回 非営利組織の制度①：NPO法人の制度
- 第5回 非営利組織の制度②：一般法人・公益法人の制度
- 第6回 非営利組織の制度③：その他の法人の制度
- 第7回 NPOのマネジメントの諸側面①：マネジメント
- 第8回 NPOのマネジメントの諸側面②：ガバナンス
- 第9回 NPOのマネジメントの諸側面③：寄附と支援のしくみ
- 第10回 （ゲストスピーカー：NPO法人の代表を予定）
- 第11回 NPOの存在意義①：企業との関係
- 第12回 NPOの存在意義②：行政との関係
- 第13回 NPOの世界・過去・未来
- 第14回 （ゲストスピーカー：中間支援の専門家を予定）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社2020

参考書 レスリー・R・クラッチフィールド他（服部優子訳）『世界を変える偉大なNPOの条件』ダイヤモンド社2012 田尾雅夫ほか『非営利組織論』有斐閣2009

授業外での学習

次回の授業範囲について、配布資料などを読んで予習してください。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、復習をしてください。

評価方法

期末試験80%、授業内の課題20%で評価します。

履修上の注意

授業中の私語、携帯電話は厳禁です。

科目名 異文化コミュニケーション
Title Intercultural Communication
科目区分 観光政策基礎科目

准教授 木暮 律子 (コグレ リツコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

文化的背景の異なる人々が交わる異文化接触場面では、コミュニケーション上のさまざまな問題が生じる。本講義では、そうした異文化間のコミュニケーションについて取り上げ、異文化間の誤解や摩擦が生じる原因を考察しながらその解決方法を探っていく。
前半の講義では、異文化コミュニケーションを理解するうえで重要な概念について概説するとともに、異文化理解に関するセルフチェックを通して、自分自身の行動や考え、コミュニケーションの取り方を振り返る。
後半の講義では、異文化間協働のグループワークを行い、実践的なトレーニングを通して、異文化コミュニケーション能力を身に付ける。

達成目標

- 1) 異文化間における「誤解」の原因を理解し、異文化接触場面において有効なコミュニケーション・スキルを身に付ける。
- 2) 自分が属する文化・社会における行動様式とその特徴を理解し、異文化接触場面における問題を解決していく力を養う。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス 講義概要の説明
- 第2回 多言語・多文化化する日本社会 文化とは何か
- 第3回 コミュニケーションとは何か コミュニケーション・スタイル
- 第4回 非言語コミュニケーション 身体動作・空間の使い方・時間の感覚
- 第5回 自己開示 ステレオタイプ
- 第6回 異文化適応の過程 異文化理解への態度
- 第7回 トレーニング(1) 日本語を母語としない人のことを考えて書く
- 第8回 わかりやすさとコミュニケーション 相手に伝えるための工夫
- 第9回 トレーニング(2) 「やさしい日本語」による情報提供
- 第10回 異なる意見への対処 アサーティブ・コミュニケーション
- 第11回 グループワーク(1) 課題の作成
- 第12回 グループワーク(2) 課題の検討・修正
- 第13回 グループワーク(3) 課題の完成、発表準備
- 第14回 発表会 課題の発表・評価
- 第15回 まとめ 評価結果発表・講評

教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 講義のなかで紹介する。

授業外での学習

授業後に配布資料やノートを読み返して復習し、学習内容の定着を図ること。グループワークの回では、授業外でもグループメンバーと協力して作業を進めること。

評価方法

平常点(65%)、期末試験(35%)
期末試験はレポート試験

履修上の注意

平常点は、授業内の課題やリアクションペーパー、グループワークの作品や発表で評価する。受講希望者は第1回の授業に必ず出席すること。出席回数が3分の2に達しない者は評価の対象としない。なお、第10回までの講義において6回以上欠席している場合は、第11回以降のグループワークに参加することができないので注意すること。

科目名 文化人類学
Title Cultural Anthropology
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
教授 小牧 幸代 (コマキ サチヨ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

文化人類学とは、世界の諸民族・諸社会における「文化」のあり方を調査し、比較分析することで、究極的には「人間とは何か」という問いに答えを与えようとする学問である。人類学者は、特定の諸民族・諸社会に特徴的な行動様式、思考様式、生活様式や、諸民族・諸社会の間の文化をめぐる多様性や個別性、普遍性や共通性の背景を明らかにしようとしてきた。ところが、昨今では、文化の概念を枠組み自体が揺らぎはじめ、伝統的に構築されてきた「純粋で真正な文化」の存在が疑問視され、文化が本来的に「雑多で混交的」であり、「歴史的に構築されてきたもの」であることが明らかにされている。本講義では、文化をめぐる理論と、文化人類学の学説史を学ぶことで、世界各地の文化 (= 他文化) と身近な事例 (= 自文化) を比較する際の問題点と、その解決策につながるきっかけを考える。

達成目標

最近のバラエティ番組では、しばしば世界の「奇祭」が紹介される。それらは驚きや笑いの対象となることが多いが、本当に私たちには理解できないカテゴリーの祭りなのか。社会的・歴史的な背景や前後の脈絡は、正当に紹介されているだろうか。本講義の達成目標は、文化に関する理論を学ぶことで、「他文化 / 自文化」を意識化する「時間」「場所」「状況」に自ら気づけるようになることである。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス～文化人類学の学問領域、他文化理解と自文化理解、文化の比較とその困難
- 第2回 文化人類学の歴史と概要～イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ、そして日本
- 第3回 文化の定義とその変遷、文化のモデルとしての言語
- 第4回 文化人類学理論前史～大航海時代、宗教改革、啓蒙主義、植民地主義と帝国主義
- 第5回 進化論1～社会ダーウィニズムと婚姻形態・政治制度の発展段階説、狩猟採集民社会「コイサンマン」
- 第6回 進化論2～原始宗教(アニミズム、フェティシズム、トーテミズム、マナイズム)と宗教の発展段階説
- 第7回 進化論批判1～文化相対主義と多文化主義、そして反文化相対主義
- 第8回 進化論批判2～新進化論と伝播論・文化圏説
- 第9回 機能主義1～マリノフスキーが描いたメラネシア(トロブリアンド諸島)の贈与経済「クラ交換」
- 第10回 機能主義2～ラドクリフ・ブラウンが描いたアフリカの親族と社会
- 第11回 構造主義～レヴィ・ストロースの理論、メアリー・ダグラスの儀礼分析
- 第12回 象徴人類学～エドモンド・リーチの同心円モデル、ヴィクター・ターナーの色彩分析、ダン・スperlベルの批判
- 第13回 解釈人類学と実験民族誌～クリフォード・ギアツ、ヴィンセント・クラバンザーノ、ポール・ラビノー
- 第14回 今日の人類学～オリエンタリズム批判、ポストコロニアル状況、ポストモダン人類学
- 第15回 まとめ～「周縁の人びと」への注目、反・反文化相対主義という立場、若者がテロリズムに走る社会背景

教科書・参考文献

教科書 毎回、資料を配付する。

参考書 綾部恒雄・桑山敬己編 『よくわかる文化人類学 第2版』 ミネルヴァ書房

授業外での学習

毎回配布する資料を授業後にも読むなどして知識の定着を図るとともに、その知識を活用し、常に身近な出来事や現象に関心をもつよう心がけること。そのなかで生まれた疑問は、授業中や授業の前後に、遠慮なく教員にぶつけてみてください。

評価方法

レポート(30%)～3回実施。1回10点満点。内容に応じて10段階評価する。 定期試験(70%)～試験範囲は配布資料。

履修上の注意

授業には、1回目から出席すること。

科目名 観光文化政策論
Title Cultural Tourism Management
科目区分 観光政策基礎科目

教授 丸山 奈穂 (マルヤマ ナホ)

担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 前期

目的

The goal of this course is to investigate the relationship between culture and tourism. We will examine the socio-cultural complexities of cultural heritage tourism. Issues and trends in managing tangible and intangible assets, such as interpretation, globalization, cross-cultural values, impact of development, sustainable tourism, will also be discussed. このクラスでは、文化と観光の関係について学ぶ。ヘリテージ（遺跡、遺産など）を観光地化することに関する様々な問題点や利点についても学ぶ。

達成目標

The learning objectives of this course would be to acquire knowledge of 1. Theories of cultural tourism, 2. Stakeholders of cultural tourism, and 3. issues about contemporary issues regarding cultural tourism. このクラスでは以下の3点を学ぶことを目的とする：1.文化観光にまつわる理論、2.文化観光に関わるステークホルダーとその観光との関わり、3.今日の文化観光にまつわる様々な問題点とその解決方法

スケジュール

- 第1回 Introduction to the course オリエンテーション
- 第2回 What is heritage? What is culture? ヘリテージとは何か？文化とは何か？
- 第3回 Conserving the past 過去を保存することの意味
- 第4回 Heritage interpretation ヘリテージの解釈
- 第5回 The authenticity debate 観光と「本物」について
- 第6回 The politics of heritage ヘリテージとポリティクス
- 第7回 Midterm 中間テスト
- 第8回 Heritage tourism demand ヘリテージ観光への需要
- 第9回 Tourism and intercultural understanding 1 観光と異文化理解 1
- 第10回 Tourism and intercultural understanding 2 観光と異文化理解 2
- 第11回 Tourism and intercultural understanding 3 観光と異文化理解 3
- 第12回 Tourism and Intercultural understanding 4 国内旅行を通じた異文化理解
- 第13回 Presentation Prep プレゼンテーション準備
- 第14回 Presentation プレゼンテーション
- 第15回 Wrap up まとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 安村克己ほか編 『観光社会文化論講義』くんぷる
山下晋司編 『観光文化学』新曜社 その他、講義内で適宜指示する

授業外での学習

授業ノートを見直し、理解が理解が不十分な場合は参考図書などで補うこと
また、教員から指示がある場合は、参考資料を事前に読み、専門用語等を確認しておくこと

評価方法

中間テスト 20% / プレゼンテーション 30% / レポート 30% / 授業への参画 20%

履修上の注意

This class will be held in English. Students are expected to read the hand-outs and other materials before the class and actively participate in the class discussion.

科目名 地産地消・スローフード論
Title CSA and Slowfood
科目区分 観光政策基礎科目

教授 片岡 美喜 (カタオカ ミキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

近年、食を取り巻く現場において様々な課題が露出したことで、「食の安心・安全」を望む声が高まりを見ている。「食の安全・安心」への関心の高まりとともに、消費者と生産者の交流を通じた取組等が各地で見られている。加えて、地域観光の実践の場においても、特産品開発や地域性を盛り込んだフードツーリズムの促進など、食と農を結びつけた取り組みへの注目が高まっている。このような近年の動向は、消費者である私たちにとってどのような意味を投げかけているのだろうか？

本講義では、前述した近年の動きを踏まえ、食と農の現状と課題を俯瞰的に学び、これらの課題の“当事者”としての理解を促進することを目的とする。また、活動から生まれる波及効果（教育効果や地域振興効果）を知ることで、地域づくりや観光事業等の企画立案に寄与する基礎概念を学ぶ。

達成目標

- ・ 食と農の現状と課題を学び、その国内状況の大枠を把握できる。
- ・ 「地産地消」「スローフード」にまつわる基本的な認識を身につけ、自分の考えを含めて説明することができる。

スケジュール

第1回	講義ガイダンス	* 講義の目的、授業評価、学んでほしいポイントなど
第2回	食料と農業の現状	統計データ等を中心に、食料問題、農業問題を理解する
第3回	私たちの食生活とフードシステム	
第4回	地産地消と農業・環境の関係(1)	地産地消概念が生成された背景を、農業・環境問題から学ぶ
第5回	地産地消と農業・環境の関係(2)	(有機農業、産消提携運動、『沈黙の春』『複合汚染』)
第6回	地産地消に関する政策および地域での沿革	
第7回	地産地消と教育活動との関係	地産地消運動の中心的な取組である教育活動を学ぶ
第8回	地産地消と教育効果	(農業体験、学校給食、調理体験など)
第9回	スローフード運動と世界的な動向(1)	スローフード運動を中心とした世界での取組を学習する
第10回	スローフード運動と世界的な動向(2)	(スローフード、CSA運動、フードマイル、身土不二など)
第11回	ケーススタディ(農業体験活動、直売・農家レストランなど6次産業化、グリーンツーリズムなど)	
第12回	食育概念の生成と政策的動向	地産地消の実践の中で注目される食育と実際を学ぶ
第13回	食品安全性問題と消費者(1)	食品安全性問題とその背景を学び、消費者のあり方を考える
第14回	食品安全性問題と消費者(2)	今後望まれる消費者、食と農のあり方を考察する
第15回	講義のまとめ	

教科書・参考文献

教科書 ・ 基本的に、配布するレジユメを教科書に充てる。
・ 必要な文献がある場合は、適宜指示する。

参考書 橋本卓爾、大西敏夫『食と農の経済学』ミネルヴァ書房
荏開津典生『農業経済学』岩波書店

授業外での学習

講義時間中に、講義時間外での学習について指示を行う。主には配布資料の読み込みなどである。

評価方法

講義内課題、中間テストもしくはレポート(30%)、期末テストもしくは期末レポート(70%)を評価対象とする。

履修上の注意

みなさんにとって、地産地消やスローフードというと、自分とは遠いものとの印象があるかもしれない。本講義では、私達にとって重要な食の問題やそれを生産する農業等を中心に、地産地消運動やスローフードの取組とその背景を読み解くことで、「我がこと」として、食と農の今を捉えてもらいたいと願っている。

科目名 農村地理学
Title Rural Geography
科目区分 観光政策基礎科目

担当教員
教授 西野 寿章 (ニシノ トシアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

山村の地理学。本講では、過疎化、高齢化の著しい山村地域に的を絞って、今日の山村問題が形成されてきた背景、山村振興への取り組み、林業振興への取り組みなどを講じて、山村問題への認識を深める。日本は国土面積のおよそ70%が森林で覆われているが、その森林の中に居住している人口はわずか4%あまりに過ぎない。森林は国土を保全し、都市地域で使用される水道用水、工業用水の水源を涵養する重要な役割を果たしている。しかしながら、都市人口が全人口の80%近くを占める日本では、山村地域の役割への認識、森林の持つ公益的機能への理解が乏しいのが現実でもある。森林蓄積量が年々増大しているにもかかわらず、日本林業は低迷したままでもある。本講を通して、山村地域の現状への理解を深め、容易ではない山村の振興について考えてみたい。

達成目標

森林資源が豊かであるにもかかわらず、木材自給率が低い日本の実情、安価な外材への依存を深めてきた日本の木材市場の歴史や構造への理解を深め、南北問題と日本の山村問題の関連性についても理解を深める。

スケジュール

- 第1回 日本の山村問題史 日本の山村の起源と背景を紹介する
- 第2回 現代山村への研究視点 現代の山村問題へどのような研究視点を持たばよいのかを考察する
- 第3回 山間地域農業の構造と現局面 山間地域農業史と現状を紹介し、有機農業などの山間地域農業の可能性を考える
- 第4回 戦後における日本林業の変遷(1) 復興期～1980年の間の日本林業の展開を解説する
- 第5回 戦後における日本林業の変遷(2) 1980年～現在の間の日本林業の展開を解説する
- 第6回 環境保全論と山村振興 近年の山村の公益機能論について考える
- 第7回 電源開発と山村 水力電源開発の山村での展開と都市の発展について考える
- 第8回 水資源開発と山村の変貌 水源地域の疲弊と水需要地域の繁栄の構図を考える
- 第9回 山村生活史の変貌 山村生活の変化を社会経済的条件の変化との関係から説明する
- 第10回 観光による山村振興 観光による山村振興の歴史と現状、課題を考察する
- 第11回 企業誘致による山村振興とその限界 企業誘致による山村振興史と現状について紹介する
- 第12回 ソーシャルキャピタル論と山村振興 ソーシャルキャピタルの概念を用いて持続的な山村社会の形成を考察する
- 第13回 平成の大合併と山村の再編成 平成の大合併によって山村はどのように再編されたかを概説する
- 第14回 非合併山村の存立基盤 平成の大合併で合併しなかった山村の存立基盤について考察する
- 第15回 まとめ 山村持続への地域政策的視点と展望

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない。

参考書 授業中に紹介する。

授業外での学習

シラバスの内容をよく把握し、関連した論文や文献を読んで予習、復習することが望ましい。

評価方法

平常点(30点)、期末試験(70点)の総合評価によって行う。毎回、小レポートを課し、その評価を平常点とする。

履修上の注意

出席調査は毎回行う。授業回数の2/3以上出席しないと試験を受けることはできない。

科目名 観光まちづくり論
Title Tourism and Community Development
科目区分 観光政策基礎科目

准教授 井手 拓郎 (イデ タクロウ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

目的

本講義の目的は、「観光まちづくり」の現状と課題を理解し、あわせて課題解決思考力を養うことである。国民の国内旅行と外国人の訪日旅行を拡大するため各地域が積極的に観光地づくりに取り組む中で、近年「観光まちづくり」という概念が注目を集めている。そこで本講義は、「観光まちづくり」が誕生してきた背景を確認し、「観光まちづくり」とは何かを学ぶ。また「観光まちづくり」の事例を把握することによって実態をつかみ、あわせて「観光まちづくり」推進における課題を整理する。さらに、課題解決の方策について検討し、「観光まちづくり」のあり方について議論する。そのために、グループワークやフィールドワークを組み合わせる可能性がある。Covid-19の感染拡大の状況や履修者数を踏まえて、左記についての実施有無の判断や内容説明・指導を行う。

達成目標

- (1) 「観光まちづくり」の概念および地域における実態を理解する。
- (2) 「観光まちづくり」推進における課題を整理し、それを他者に説明できる。
- (3) 「観光まちづくり」の現状と課題を踏まえながら、さまざまなステークホルダーを意識した課題解決策を発想し、それをまとめて他者に提示できる。

スケジュール

- 第1回 講義オリエンテーション(講義概要、スケジュール、評価方法、受講ルール等)
- 第2回 講義に関わる基本概念「旅行」「観光」の規定
- 第3回 観光まちづくり誕生の背景と概念規定
- 第4回 事例(1) 雪まつりを通じた観光まちづくり
- 第5回 事例(2) 観光まちづくりと地域ブランディング
- 第6回 事例(3) オンパク手法
- 第7回 事例(4) 地域らしさを活かしたイノベーション
- 第8回 【基礎知識確認テスト】範囲は第7回までの内容
- 第9回 観光まちづくり推進組織の課題(1)
- 第10回 観光まちづくり推進組織の課題(2)
- 第11回 観光計画の基礎知識～あなたが計画者になったら～(1)
- 第12回 観光計画の基礎知識～あなたが計画者になったら～(2)
- 第13回 観光地とユニバーサルツーリズム
- 第14回 観光地の危機管理
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 スクリーン投影のPowerPointスライドを中心に講義を進める。

参考書 西村幸夫編著(2009)『観光まちづくり：まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社
その他、参考となる書籍・論文・報告書等は、講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

講義中に次回講義に向けた予習を指示する。講義後は自身のノートに学習したことをまとめておく。さらに、講義内で指示された課題がある場合は積極的に取り組み、締切日までに提出する。グループワークやフィールドワークについては、Covid-19の感染拡大の状況や履修者数を踏まえて、具体的な活動指示を行なう。

評価方法

基礎知識確認テスト30%、最終試験(または最終レポート)70%
※Covid-19の影響による授業方法変更や履修者数によるフィールドワークの実施有無などによって、変更する可能性がある。その場合は、その都度説明を行う。

履修上の注意

- (1) グループワークやフィールドワークのため、能動的な姿勢が必須である。講義スケジュールや評価方法などに変更が生じた場合は、変更内容を講義内で説明する。
- (2) 遅刻や授業中の私語、スマートフォンなどの電子端末機器の使用は厳禁である。その他の受講ルールは第1回講義で説明する。そのため履修希望者は必ず第1回講義に出席すること。